

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	関係法規	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	医療法（概念・病院等施設）について理解する。医療の安全確保について理解する。 健康保険法・国民健康保険法・高齢者の医療に関する法律などを理解し柔道整復師の業務に関する関わりについて理解する。			評価方法	期末試験 100% 小テストにて加減 （100点換算で60点以上で合格）		
授業概要	プリント冊子及び問題集を中心に柔道整復師の業務に係る法律を中心に学習する。						
教科書等	関係法規	使用器材	プロジェクター				
週	授業項目・内容				実施結果		
第1週	医療法（1）総則 医療提供の理念 インフォームドコンセント						
第2週	病院・診療所の定義						
第3週	医療に関する選択の支援等 情報の提供 広告						
第4週	医療の安全の確保 国の責務 医療安全支援センター 病院等の開設 病床の別 管理						
第5週	助産所の嘱託医師 清潔保持等 病院の法定人員及び施設の基準等 地域医療支援病院の法定施設等 第3節 監督 医療提供体制の確保 医療計画						
第6週	社会福祉法、生活保護法、児童福祉法、身体障害者福祉法 知的障害者福祉法、老人福祉法、障害者自立支援法						
第7週	健康保険法・国民健康保険法・、旧老人保健法、介護保険法						
第8週	個人情報の保護に関する法律						
第9週	柔道整復師法 復習						
第10週	柔道整復師施行規則、省令						
第11週	日本国憲法						
第12週	復習プリント（柔道整復師法）						
第13週	復習プリント（関係法規）						
第14週	復習プリント（総合）						
第15週	復習プリント（総合）						
授業外 学習指示等	プリントを中心に復習する。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	柔道整復学Ⅶ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	谷口 禎二	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	各損傷における発生機序・症状・合併症・治療法・後遺症などがいえる。			評価方法			
授業概要	「下肢の損傷」の冊子に添い練習問題を交えて確認する。			期末試験 100% 小テストにて加減 （100点換算で60点以上で合格）			
教科書等	柔道整復学（理論編）	使用器材	プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	下肢の損傷の実力小テスト						
第2週	骨盤の骨折 大腿骨頸部骨折・p351～366						
第3週	股関節脱臼 股関節軟部組織損傷 p367～376						
第4週	大腿部の損傷 大腿骨骨折・軟部組織損傷p377～378						
第5週	膝関節部の損傷 大腿骨遠位部骨折・p378～392						
第6週	下腿骨近位部骨折・膝関節脱臼・膝蓋骨骨折・膝蓋骨脱臼p392～401						
第7週	膝関節部の軟部組織損傷p401～410						
第8週	下腿部の損傷 下腿骨幹部骨折・p411～420						
第9週	下腿部軟部組織損傷 足関節部の骨折p420～431						
第10週	足根部の骨折・軟部組織損傷p432～441						
第11週	足・足趾の損傷 骨折・脱臼・軟部組織損傷p442～456						
第12週	骨折総論・脱臼総論・軟部組織損傷総論の復習						
第13週	上肢の損傷の復習						
第14週	下肢の損傷の復習						
第15週	骨盤骨折～足趾部損傷まとめ・練習問題						
授業外 学習指示等	教科書の熟読						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	柔道整復学総合Ⅲ	授業時期	後期	授業時数	10
実務経験		担当	小川 勝	授業方法	座学	単位数	1
到達目標	①臨床実地問題におけるキーワードから、疾患を適切に判断することができる。②図および写真から、疾患を適切に判断することができる。			評価方法			
授業概要	柔道整復（①総論、②骨折、③脱臼、④軟部組織損傷）に関する理解を総合的に行うために、これまで学習した内容に関する種々の問題を解くことを通して、専門職としての基礎知識を整理し、理解を深化させることを目的とします。			期末試験100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理①						
第2週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理②						
第3週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理③						
第4週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理④						
第5週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑤						
第6週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑥						
第7週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑦						
第8週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑧						
第9週	問題演習を通しての、各疾患の症状・治療法などの知識の整理⑨						
第10週	まとめ						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	保健科学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験		担当	平山 依里	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床現場での診断、処置について総論と各論を結びつけながら理解し、記述出来る			評価方法			
授業概要	臨床現場での診断、処置について総論と各論を結びつけながら学習する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(筋肉の構造について)						
第2週	臨床における柔道整復術に関わる解剖・生理(感覚器について)						
第3週	臨床における柔道整復術に関わる病理(疾病の分類について)						
第4週	臨床における柔道整復術に関わる病理(代謝障害について)						
第5週	臨床における柔道整復術に関わる病理(循環障害について)						
第6週	臨床における柔道整復術に関わる病理(炎症について)						
第7週	臨床における柔道整復術に関わる病理(免疫異常・アレルギーについて)						
第8週	臨床における柔道整復術に関わる病理(先天性異常について)						
第9週	臨床における柔道整復術に関わる病理(病因について)						
第10週	臨床における柔道整復術に関わる運動(身体活動と力学について)						
第11週	臨床における柔道整復術に関わる運動(運動器の構造と機能について)						
第12週	臨床における柔道整復術に関わる運動(神経の構造と機能について)						
第13週	臨床における柔道整復術に関わる運動(運動感覚について)						
第14週	臨床における柔道整復術に関わる運動(反射と随意運動について)						
第15週	まとめ						
授業外学習指示等	前回学習した範囲の復習テストを行い、自宅学習させる						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科(夜間部) 3年	科目名	柔道整復術適応の臨床的判定	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	施術業務経験:平山11年、小川15年	担当	平山 依里 小川 勝	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	臨床所見から判断して、施術に摘する損傷と、適さない損傷を的確に判断できる能力を身につけ、また、医用画像も理解できる。			評価方法			
授業概要	前半:外傷に類似した症状を示す疾患の判別や外傷に潜んでいる危険を学習する。後半:超音波画像診断の理解を念頭に、医用画像機器の特性や判断における要点について学習する。(超音波診断装置を用いて実習も行う。)			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	施術の適応と医療画像の理解	使用器材	OHP、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	柔道整復術の適否を考える・損傷に類似した症状を示す疾患(P1~P21)						
第2週	血流障害を伴う損傷・末梢神経損傷を伴う損傷(P22~P36)						
第3週	脱臼骨折・外出血を伴う出血(P37~P48)						
第4週	病的脱臼および脱臼・意識障害を伴う損傷(P49~P57)						
第5週	脊髄症状のある損傷(P59~P66)						
第6週	呼吸運動障害を伴う損傷(P67~P72)						
第7週	内臓損傷の合併が疑われる損傷・高エネルギー外傷(P73~P81)						
第8週	医用画像の理解 医用画像とは 放射線の概要 X線発生装置の概要(P83~P85)						
第9週	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法 その1(P86~P94)						
第10週	医用画像の理解 主要な部位の一般撮影法 その2(P95~P104)						
第11週	医用画像の理解 磁気共鳴装置の概要(P113~P121) X線CTの概要(P105~P113)						
第12週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要1(P122~P132)						
第13週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要2(P122~P132)						
第14週	医用画像の理解 超音波画像装置の概要3(P122~P132)						
第15週	医用画像の理解 核医学検査の概要(P132~P137)						
授業外 学習指示等	復習の仕方の指導を行い、実行させる						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	柔道整復実技V	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	整骨院を経営し施術業務従事中	担当	山崎和弘	授業方法	実習	単位数	1
到達目標	スポーツの種別による発生頻度の高い外傷、損傷及び救急対応の処置を学ぶこと。			評価方法			
授業概要	柔道を通して柔道整復学実技を指導する。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	柔道整復学(理論編・実技編)	使用器材	OHP				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	BLS(一時救命処置) 学校内における連絡体制の整備と周知						
第2週	頸部損傷 ①軟部組織損傷 ②頸部骨折 ③頸部脱臼						
第3週	背部、胸部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第4週	上肢損傷(肩、鎖骨部) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第5週	上肢損傷(上腕骨近位) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第6週	上肢損傷(上腕骨遠位) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第7週	肘部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼前腕部損傷						
第8週	前腕部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第9週	手部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第10週	下肢損傷(骨盤部) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第11週	下肢損傷(股部、大腿部) ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第12週	膝関節損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第13週	下腿部損傷 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第14週	足部 ①軟部組織損傷 ②骨折、脱臼						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	柔道整復術は、整復、固定、後療法多岐に亘る為、教科時間の合理的な整理を心掛けてもらいたい。						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	リハビリテーション医学	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	病院・介護老人保健施設勤務歴11年	担当	大田尾 浩	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	1 リハビリテーションの概念を説明できる。 2 各種疾患における障害の分類を理解できる。 3 各種疾患のリハビリテーションの内容を述べるこおtができる。			評価方法			
授業概要	リハビリテーション医学について、柔道整復との関連において、その概念を解剖、生理、運動学と関連させて学ぶ。リハビリテーションを必要とする代表的な疾患について概略を学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	リハビリテーション医学、配布資料	使用器材	PC プロジェクター				
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	オリエンテーション						
第2週	リハビリテーションの理念 (P1~8)						
第3週	リハビリテーションの対象と障害者の実態 (P9~13)						
第4週	障害の階層とアプローチ (P19~30)						
第5週	リハビリテーション評価学 (P31~54)						
第6週	リハビリテーションの障害学と治療学 (P57~105)						
第7週	前半のまとめ (P1~105)						
第8週	リハビリテーション医学の関連職種 (P109~116)						
第9週	リハビリテーション治療技術 (P119~155)						
第10週	高齢者のリハビリテーション (P157~172)						
第11週	運動器のリハビリテーション (P177~244)						
第12週	リハビリテーションと福祉 (P245~248)						
第13週	障害者スポーツ (P251~257)						
第14週	後半のまとめ (P109~257)						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	1 指定した教科書を受講前に読んでおくこと。 2 講義時に配布するプリントを用いて復習すること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	整形外科①	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	医師(整形外科クリニック院長)	担当	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	① 整形外科的疾患についての理解を深める ② 各疾患における特徴的な症状、部位、好発年齢等を学ぶ ③ 各疾患に対する適切な検査及び診察法を理解する			評価方法			
授業概要	整形外科は運動器の医学であり、取り扱う部位は脊柱・骨盤・四肢である。運動療法を行う上で、必要な整形外科の知識と理解の再確認を行う。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科、標準整形外科	使用器材					
週	授 業 項 目 ・ 内 容						実施結果
第1週	感染性疾患						
第2週	骨腫瘍 ① 悪性腫瘍						
第3週	骨腫瘍 ② 良性腫瘍、軟部腫瘍						
第4週	非感染性骨関節疾患 ① 変形性関節症 関節リウマチ 痛風						
第5週	非感染性骨関節疾患 ② その他の関節炎 骨粗鬆症						
第6週	骨系統疾患						
第7週	骨端症及び四肢循環障害						
第8週	神経筋疾患 ① 上肢、下肢の神経麻痺と絞扼性神経障害 腕神経叢損傷						
第9週	神経筋疾患 ② 全身性神経筋疾患 脊髄腫瘍 脊髄損傷						
第10週	身体部位別各論 頸椎						
第11週	胸椎及び腰椎疾患						
第12週	肩 肩甲帯 ① 機能解剖						
第13週	肩 肩甲帯 ② 肩関節損傷						
第14週	まとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	疾患による症状や各種検査の所見の違いを確実に理解、区別して覚えること						

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	整形外科②	授業時期	後期	授業時数	60
実務経験	医師(整形外科クリニック院長)	担当	都築 克幸	授業方法	講義	単位数	2
到達目標	① 整形外科的疾患についての理解を深める ② 身体部位の違いによる特徴や症状について理解する ③ 解剖と疾患の関連性について理解を深める			評価方法			
授業概要	臨床に必要な整形外科的知識を習得させる。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	整形外科学、標準整形外科学	使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	上腕 肘 機能解剖 骨折 骨軟骨障害						
第2週	肘及び前腕部 靭帯損傷 前腕の骨折損傷						
第3週	手関節 機能解剖 骨折 関節疾患						
第4週	手 手指 機能解剖 骨折 変形 他						
第5週	骨盤 股関節 解剖 骨折 関節周囲損傷						
第6週	大腿骨 膝 ① 機能解剖 骨折						
第7週	大腿骨 膝 ② 靭帯損傷 他						
第8週	下腿 機能解剖 骨折 その他の損傷						
第9週	足関節 機能解剖 骨折 靭帯損傷 他						
第10週	足 足趾 骨折 変形 神経障害 他						
第11週	復習 ①						
第12週	復習 ①						
第13週	復習 ①						
第14週	まとめ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	各疾患に重要な解剖知識を確認して授業に挑むこと 基礎知識と臨床所見がつながるように知識を整理すること						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	一般臨床医学Ⅱ	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	吉武 毅人	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	「一般臨床医学Ⅰ」の学びを踏まえて、さらに疾患に関する知識を深め、以下の項目を到達目標とする。 ①診察の基本を実施できる。 ②内科疾患を中心とした疾患の概念を説明できる。			評価方法			
授業概要	内科学一般・内科診断学を通じて、内科的疾患とその診察法について学ぶ。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	一般臨床内科・配布資料	使用器材	PC (PCプロジェクター・OHP)				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	消化器疾患①						
第2週	消化器疾患②						
第3週	消化器疾患③						
第4週	消化器疾患④						
第5週	肝胆膵疾患①						
第6週	肝胆膵疾患②						
第7週	血液疾患①						
第8週	血液疾患②						
第9週	免疫疾患						
第10週	膠原病						
第11週	内分泌疾患①						
第12週	内分泌疾患②						
第13週	代謝疾患						
第14週	まとめ						
第15週	総合まとめ						
授業外 学習指示等	1 講義に臨む前に教科書の該当箇所を読んでおくこと。 2 復習は、特にその日の授業の重要事項をその日の内に振り返ること。						

令和3年度

授 業 計 画 書

学科・学年	柔道整復学科 3年	科目名	外科学概論	授業時期	後期	授業時数	30
実務経験	医師(病院実務研修有り)	担当	小山 進	授業方法	講義	単位数	1
到達目標	外科で扱う疾患、手術の概要と術前・術後の管理に関する基本的知識を習得する。			評価方法			
授業概要	外科学概論では、柔道整復師に必要とされる臨床医学的基礎知識のうち、特に外科学一般の基礎となる総論的な知識の周知徹底を図る。			期末試験 100% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	外科学概論(柔整)	使用器材	講義用プリント、液晶プロジェクター				
週	授 業 項 目 ・ 内 容					実施結果	
第1週	「ショック・心肺蘇生」 バイタルサインの見方を基礎として急性期の患者管理を学ぶ						
第2週	「意識障害」 意識障害を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第3週	「脳卒中」 脳卒中の分類、病態、症状と急性期の治療に関して学ぶ						
第4週	「胸部外傷(1)」 胸部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第5週	「胸部外傷(2)」 胸部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第6週	「頭部外傷(1)」 頭部の解剖と外傷による病態に関して学ぶ						
第7週	「頭部外傷(2)」 頭部外傷による病態に対する急性期の処置に関して学ぶ						
第8週	「出血と止血」 出血の病態と止血法に関して学ぶ						
第9週	「急性腹症」 急性腹症を来たす疾患と急性期の処置に関して学ぶ						
第10週	「輸血と輸液」 血液の生理、血液型の検査、輸血・輸液法に関して学ぶ						
第11週	「消毒と滅菌」 滅菌法、消毒薬の分類とその使用に関して学ぶ						
第12週	「手術」 術式や手術器具の種類とその使用法に関して学ぶ						
第13週	「麻酔」 麻酔薬の種類と麻酔法に関して学ぶ						
第14週	「外科的感染症」 外科領域で問題となる病原微生物とその病態に関して学ぶ						
第15週	まとめ						
授業外 学習指示等	指定された教科書を通読し予習をし、その日の授業後に講義用プリントを読んで復習する。						

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	臨床実習	授業時期	後期	授業時数	90
実務経験	整骨院で約15年の施術業務経験有り	担当	小川 勝	授業方法	実習	単位数	2
到達目標	柔道整復師としての臨床における実践的能力及び保険の仕組みに関する知識を習得し、患者との適切な対応を学ぶ。また、施術者としての責任と自覚を学ぶ。			評価方法			
授業概要	臨床実習にて医の倫理、態度など柔道整復師としてのあり方や急性症状に対する施術の基礎を身につける。社会保障の仕組みを理解し、受領委任や償還払いの違いや柔道整復師法、健康保険取り扱いに関する関連規定を学ぶ。また、臨床現場で遭遇しやすい疾患の診断法及び施術法を習得する。			実習時評価25% レポート25% 実習課題(カルテ・デイリーノート・症例報告)50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等	「柔道整復学 理論編」(南江堂) 「柔道整復学 実技編」(南江堂)	使用器材					
週	授業項目・内容						実施結果
②第1週	①柔道整復師の業務 ②医療機関、接骨院の業務前準備 ③予診の取り方および実務補助 ④外傷のとらえ方 ⑤物理療法器械説明 ⑥物理療法体験および実務補助 ⑦運動療法体験および実務補助 ⑧運動療法の実際 ⑨接骨院業務の実際 ⑩接骨院終了業務、カルテ整理						
②第2週							
②第3週							
②第4週							
②第5週							
②第6週							
③第1週							
③第2週							
③第3週							
③第4週							
③第5週							
③第6週							
授業外学習指示等	基本的な知識や技術は、自分で繰り返し反復練習すること						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	競技者の外傷予防技術Ⅰ	授業時期	後期	授業時数	15
実務経験	整骨院で15年、病院整形外科勤務4年	担当	小川 勝	授業方法	実技	単位数	1
到達目標	競技者、高齢者特有の外傷に対し、治療・施術を行うだけでなく、予防対策ができるようになること。			評価方法			
授業概要	競技者、高齢者特有の外傷に対し、術者、患者モデルを設定し予防対策のロールプレイングを行う。			実技試験50%、期末試験50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	運動生理学の概要① P1～						
第2週	運動生理学の概要②						
第3週	競技者の外傷予防① P27～						
第4週	競技者の外傷予防②						
第5週	競技者の外傷予防のための実技① P39～						
第6週	競技者の外傷予防のための実技②						
第7週	種目別の外傷予防とその実際① P97～						
第8週	種目別の外傷予防とその実際②						
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						

令和3年度

授業計画書

学科・学年	柔道整復学科（昼間部）3年	科目名	高齢者の外傷予防技術	授業時期	後期	授業時数	15
実務経験	整骨院で15年、病院整形外科勤務4年	担当	小川 勝	授業方法	実技	単位数	2
到達目標	競技者、高齢者特有の外傷に対し、治療・施術を行うだけでなく、予防対策ができるようになること。			評価方法			
授業概要	競技者、高齢者特有の外傷に対し、術者、患者モデルを設定し予防対策のロールプレイングを行う。			実技試験50%、期末試験50% (100点換算で60点以上で合格)			
教科書等		使用器材					
週	授業項目・内容					実施結果	
第1週	高齢者の外傷予防① P125～						
第2週	高齢者の外傷予防②						
第3週	高齢者の外傷予防③						
第4週	高齢者の外傷予防④						
第5週	高齢者の外傷予防⑤						
第6週	高齢者の外傷予防⑥						
第7週	高齢者の外傷予防⑦						
第8週	高齢者の外傷予防⑧						
第9週							
第10週							
第11週							
第12週							
第13週							
第14週							
第15週							
授業外 学習指示等	復習は、特にその日の授業の重要事項をその日に振り返ること						